

## 図書館で自分だけの「名文・名言」と出会う

### 友の会企画特集展示 第6回「あの名文・名言はこの本の中に！」開催中

古今東西、おそらくは星の数ほどあろうかという名文・名言ですが、そもそもの本のどこに書かれているのかについてはあまり気にされることはないようです。そこまで必要ない？ 誰の言葉なのかがわかれば十分？ そうかもしれません。しかし、どのような文脈の中で、誰に向かって書かれ語られたのか、つまりはその言葉が生まれた背景や事情を知ること、なんとなくわかっているつもりだった名文・名言がもっと深くもっと身近に感じられてくることもあるのではないのでしょうか？

とかく独り歩きしがちな言葉について「前後関係をきちんと読んでから評価しろ」と主張する権利を、失言・放言をやらかした政治家ばかりに独占させておくこともないでしょう。名文・名言といわれるワン・フレーズ、ワン・センテンスにとどまらずに、「よーし、いっそのこと原本をまるかじりしてみようか」という興味が高まるとすれば悪い話ではありません。

そんな発想から企画されたのが、今回の特集展示です。定義はとくに設けず、友の会有志が「自分にとって名文・名言と思える言葉」を持ち寄って、その出典資料を図書館に集めていただいたところ、古典から現代、哲学・思想・文学から自然科学、芝居・落語の台詞や童謡の歌詞から「恐れ入谷の鬼子母神」といった付けたし言葉まで、思わぬ顔合わせが実現し、絵本やCDも並ぶことになりました。

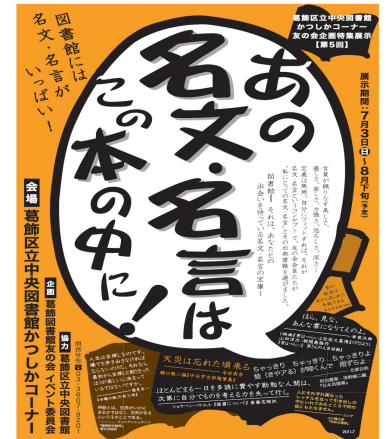
### 展示したブックリストも用意



展示にあたっては、資料ごとに「名文・名言」とその著者（あるいは発言者）、出典資料名・掲載ページ等を記したカードを添えています。自由に持ち帰れるプリント版（ブックリスト）も用意しました。

図書館では、さまざまな知られざる「名文・名言」がそれぞれの資料の中で息をひそめつつ、あなたとの出会いを待っています。今回のささやかな試みが“あなただけの名文・名言”との出会いに至るひとつのきっかけになりますように！

※本企画展示は9月17日（土）まで中央図書館かつしかコーナーで開催（当初8月下旬までだったのを好評につき延長しました）。  
(イベント委員会)



### 定着したナイトシアター 今復のラインナップをご紹介

平成23年 9月 『草迷宮』	平成24年 1月 『典子は、今』
10月 『夜と霧』	2月 『私の頭の中の消しゴム』
11月 『みすゞ』	3月 『ブタがいた教室』
12月 『素晴らしき哉、人生』	(尚、都合により変更があるかもしれません)

毎月第2土曜日、中央図書館でナイトシアター委員会が開催、詳細は図書館HP、チラシ、ポスターで



## 立石図書館、リニューアルオープン



### 友の会が記念講演の会場や館内誘導、案内に協力する

6月30日（木）午後1時、区内最初の図書館である立石図書館がリニューアルしました。京成立石駅から徒歩5分、本田小学校前にあり、かつしかエコライフプラザとの併設施設の4階建て。1階は自動貸出機・返却機が設置されたカウンターと新聞・雑誌・CDコーナー、そして喫茶コーナー、2階は児童室、3階は地域資料・YA・ビジネス支援の各コーナーとレファレンスカウンター、そして4階にはビジネスパソコンコーナーと70余りの閲覧席があります。室内はとても明るく清潔感に溢れており、屋上は省エネのため緑化され、太陽光パネルや雨水も利用しています。友の会はイベント委員会の本年度の第1回企画として6月11日午前中に約1時間の事前見学会を実施、館長から詳しい説明を受けました。開館式には友の会会長及び副会長が招待されました。

また友の会はオープン当日、7月2日（土）と3日（日）、そして10日（日）のそれぞれ午後、オレンジプロンを着用して、来館者へのパンフレットの配布、誘導や案内と開館イベントの講演会場である2階研修室への誘導に延べ17名の会員が協力しました。いずれも先着百名の講演会には開場前から多くの参加者が来館され、1階の階段付近にまで列が並び、開場時間を急遽早めるというハプニング。来館者もとぎれることなく、児童室の自動貸出機の前には本を抱えた子どもたちが待ち、駐輪場も満杯。開館を首を長くして待っていたのがよく分かりました。開館時間・休館日は原則として中央図書館とおなじのことです。

## 小学生の宿題のアドバイスに 「夏休み自由研究おうえんたい」が活躍

児童・YAサービス応援委員会は中央図書館及び葛飾区学校図書館支援指導員の有志の会との共催で、昨年の夏に続いて「自由研究おうえんたいチーム」を結成し、小学生を対象としたイベントを中央図書館で開催しました。第1回目は8月1日（月）に「図書館を使った調べる学習賞コンクール」の第12回受賞作品（複製）を30近く展示し、親子14組を含め50名近くの見学者が訪れました。第2回目は8月7日（日）、図書館の児童室が理科や家庭科・地域行事などを中心に、17項目にわたり作成した「夏休みの宿題のつよい味方」と題する『調べる学習応援シート自分で楽しく調べてみよう！』というシートや、百科事典などが取り揃えられ、引き続き『学習賞コンクール』の受賞作品も展示しました。



ところが、夏休みの日曜日は家族で出掛ける人が多いのか、来室者は大人8人、子ども7人。3時間近くかけて、〈カブトムシの研究〉で大作を仕上げた子がいましたが、あとは、ほとんどが『何をしたらいいか決まらないので・・・』と相談に来た親子でした。おうえんたいスタッフが丁寧に、シートを見せて説明したり、ちょっとしたアイデアをアドバイスしたり・・・と対応する姿が見られましたが、どの親子も、親御さんの方が頭を悩ませている、という感じが印象的でした。

第1回目が盛況だっただけに、ちょっと肩透かしを食った感じでしたが、また来年の開催に向けて、作戦を練っていきたいと思います。

（児童・YAサービス応援委員会）



## 展示企画委員会が8月から活動

### 展示スペースで「切絵展」を開く

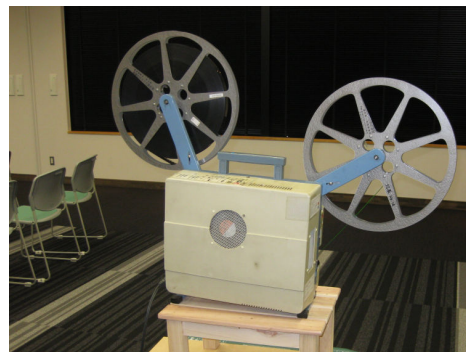
今年度から友の会8番目の委員会として発足、初の展示活動が始まりました。中央図書館トイレ前のガラスケース内と壁スペースに、複雑で細かい作業による色とりどりの切絵と江戸切子を一緒に展示しました。現在、展示アイデアと会員を募集中です。（展示企画委員会）



## 「楽しむ会」が16ミリ映画『一杯のかけそば』を上映

### “面白かった”と多くの鑑賞者に好評を得る

「16ミリ映画を楽しむ会」は今年2月に第1回目として『花いちもんめ』を上映しスタートしました。第2回目の映写会が6月18日(土)午後2時から中央図書館で開催され、『一杯のかけそば』に50名近くの人たちが鑑賞に入場されました。当初は4月に予定されていたこの映写会は東日本大震災のため、この日に延期されたものです。「楽しむ会」は“かちネット”などを利用し、様々な事前PR活動をしての開催でした。DVDと違い、ピントを合わせたり、途中フィルムを交換するため“一休み”するという昔懐かしい上映方法。重さ20キロもある映写機も含め、立川市の都立多摩図書館から貸出を受け、搬入・返却も行うなど労力も必要な活動です。



今回、上映後にアンケートを実施。その主な結果は鑑賞者の多くが年配の方で、7割近くが女性、また半数が上映会を知ったのはチラシやポスターで、過半数以上が「面白かった」との感想が寄せられています。

8月20日にはアニメ『火垂るの墓』が上映され、偶数月の第3土曜日午後2時からの上映を原則に、以降、10月15日は『黒い雨』、12月17日には『ちぎれ雲』の上映を予定しています。また今後は聴覚障害者用「字幕入り」や子どものための映写会を企画しており、運営委員やアイディアも募集しています。

ご興味のある方は是非、ご参加を。

## 貼ったり、剥がしたりなどの処理に協力

### 中央図書館での作業にのべ11名が参加



友の会は中央図書館から新宿図書センターに保存してある朗読のカセットテープのICタグの貼付及び古くなった旅行雑誌などのタグ剥がしとリサイクル処理作業の協力を依頼されました。主に古今東西の名作や人気小説などの朗読カセットが入っている約500点のケースのカバー裏などにICタグを貼り、また専用の液を塗って約600冊の雑誌や登山・観光案内書から再利用できるタグを剥がし、それらの本にリサイクルシールと除籍印を押すという根気のいる作業でした。総務委員会からの

呼びかけで、協力日まで数日しかなかったにもかかわらず、8月8日午後と9日の午前に中央図書館のボランティアルームでのこの作業に最年少会員(小学6年生)を含め延べ11名の会員が協力し、短期間で終了しました。今後とも区内の図書館から作業協力の依頼が予定されています。

## 第3回「友の会ウィーク」(10月29日～11月6日)の概要が決まる ナイトセミナー、講演会、映画会、読書会など盛り沢山

2009年にオープンした中央図書館は今年10月で開館3周年を迎えます。イベント委員会はこれを記念して第3回「友の会ウィーク」を10月29日(土)から11月6日(日)まで開催します。開催規模は昨年度とほぼ同様で、この期間中、二つの会議室やおはなしのへやを利用して、友の会朝野会長によるナイトセミナーや各委員会が行う映画会、読書会、友の会会員が所属するボランティア団体などによる紙芝居、人形劇、おはなし会、朗読会、さらに中央図書館との共催による地域関連講演会(トークライブスペシャル)として「吉本隆明の葛飾」(仮題)や親子点訳体験講座、また図書館員による図書館利用ステップアップ講座(レファレンスコーナーの活用)などバラエティに富んだイベントを企画しています。具体的には9月下旬に参加団体への説明会を開催し、その後この「友の会ウィーク」のPRを開始します。

## 心にのこる私の一冊 ⑨ マンガ『はだしのゲン』中沢 啓治作 (汐文社)

赤川 芳晴

この時期になると思い出す本は「はだしのゲン」である。思い出したくない戦争体験だ。

まだ入学前の幼き時に父親は徴用と称して軍需工場へ、其処から戦地へと赴任した。母親に手を引かれ戦地に向かう父親を見送りに行ったが時間が変更になり親子水入らずの最後の（まさか最後になるとは）弁当も取れず、軍服姿の父が並んで行進している姿がみえただけ。母の背中に負ぶさって「あれがお前のお父さんだよ」と言われたのを思い出す。父親の背の高さがどのくらいあったのかは生涯わからずじまい、顔さえ写真で見る程度だった。そしてあの東京大空襲、行くとこ、行くとこ爆弾がおちてきた。手を繋いで逃げ惑った母も気がついたら側に居なかった。毎日毎日母を捜して歩いたっけ、偶然母を見つけ抱き合った。その母親も84歳で他界した。母の力だけで育てられ最高学府まで卒業させてもらいました。勿論奨学金は利用しました。感謝しています。

私の体験もゲンに負けないと思っていたが、ゲンはあの恐ろしい原子爆弾を体験したんだ。

「太平洋戦争末期から原爆投下、さらに敗戦に至る広島市を背景に、様々な苦労や困難にも挫けずたくましく生きぬいてゆく少年の姿を通し、戦争と原爆の恐ろしさを描く」と解説書にあった。



(あかがわ・よしはる 16ミリ映画を楽しむ会委員長)

### 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

毎月第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また従来通り友の会開催イベント時に直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員は1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、23年度年会費とご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。振替手数料は銀行窓口では120円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者(打越さん、吉村さん、清水さん、白井さん) Tel 03-3607-9201

色えんぴつ

隔月に開いている広報委員会主催のキーワード読書会も既に8回目を数えた。毎回開催時期に適った次回の2〜3字のワードを中心に参加者が決め、一人十分ぐらいの限られた時間の中で、当日持ち寄った本を参加者に紹介するという肩の凝らない集いだ▼既に読んだ本であれば、どれが一番相応しいのか、またワードに因んだ本を新たに探し、読破するという楽しいチャレンジもあるが、選べば選んだで、どのように参加者に話せば分かってもらえるのかと、頭を悩ませる時もある▼当然、みんなが披露する本は小説・詩集・絵本・歴史書などと、分野に限りがなく、多種多様さが出て面白い。アツと驚く本、ムムツと唸る本、なぜ？と思う本、星の数ほど世の中に活字として出され、消えていく中から取り上げた本に、その人の個性らしきものが現れてくるのが、これまた面白い▼もちろん短時間で、ワードと選んだ本の間を他人に説明するのはそれなりの予習も必要だが、それが苦にならないのはい▼画面と、また記号としての文字に向かい合う時間が増えていく現代の日常生活の中で、わずか1時間半あまりの読書会だが、顔を見ながら、生の声で楽しく語り合え、そして反応を交わせる時間と機会は貴重な。続けていきたい。

(中里広報委員長)